【野洲市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、野洲市教育大綱において子どもの『生きぬく力』を育てることを基本目標とし、これからの新しい時代に求められる資質・能力を育成するために個別最適で協働的な学びの充実を図り、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指す。

そして、整備されたICT環境を活用することによって、児童生徒がさまざまな課題に対して、学び方やツールを自分で選択し、主体的に関わり、他者と協働しながら、粘り強く取り組む姿を目指していく。

２.GIGA第１期の総括

GIGA 第１期においては、主な事業として１人１台端末の実現と校内のネットワーク環境を整備したほか、授業支援ツールやデジタルドリル等のICTツールを導入し、ハード面ソフト面の一体的な整備を行った。また、大型提示装置や指導者用デジタル教科書等を活用しながら、ICT環境で個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて推進してきた。さらにICT支援員を各校に派遣し、ICT機器の管理や授業支援を行ってきた。

実際の活用としては、授業支援ツールを導入したことにより、教員と児童生徒の双方向で即時に課題や提出のやり取りができ、学級全員の考えを画面で共有できることで、これまでにない協働的な授業展開が可能になった。

また、デジタルドリルを導入したことで、長期休暇の課題配信や週末の宿題等に活用し、プリント作成・印刷・採点等の教員の負担軽減につながった。

さらに、オンラインコミュニケーションツール（Teams）を活用することで、別室登校や不登校児童生徒に向けて授業配信を行う学校や他市町とオンライン交流する学校、またチャット機能を利用して連絡帳の代わりにする学校など、端末の活用の幅が広がりつつある。

一方、野洲市の児童生徒のICT活用率は、全国、滋賀県と比べても低い傾向にあり、校種間、学校間、教員間によって活用の差があり、１人１台端末が有効的に活用できていない現状がある。今後は改善に向け、引き続き市内外の先行的な事例や効果的な実践の情報共有し、ICT活用研修も定期的に開催する。また、ICT推進委員やICTコアティーチャーを中心に、ICT機器を活用した授業改善を進めていく。

３.１人１台端末の利活用方策

端末の利活用の前提として、児童生徒が１人１台の端末を利活用できる環境を引き続き維持する。利活用に当たっては、特に以下の点について留意する。

① AI 型デジタルドリルの活用

令和 7 年度から AI 型デジタルドリルを導入し、一人ひとりの理解度に応じた問題を AI が判断して出題するなど、個別最適な学びの実現を推進する。難易度に応じた問題や豊富なプリント教材、高校入試データベースを活用し、自ら選択し自主的に課題に取り組む児童生徒の姿を目指す。また、今後は長期休暇の課題や宿題等での利用だけでなく、授業や帯時間での積極的な活用についても学校に働きかける。

② １人１台端末の授業支援ツールの活用

児童生徒自身が、調べたことや自分の考えを共有、まとめ、発表・表現したりする場面において活用できる授業支援ツール（ロイロノート）を、引き続き進めていく。教員と児童生徒の双方向でのやり取りだけにとどまらず、児童生徒間での考えの共有や編集など、他者と協働しながら、学習者主体の学びの実現を目指す。

③ １人１台端末を活用した学びの保障

１人１台端末を活用し、児童生徒が自分のペースで学習内容を確認したり、視覚的、音声的、翻訳ツール等の補助を用いて、理解を深めたりできるよう、個々の特性等に応じた学習支援を行う。また、別室登校や不登校の児童生徒に、授業の様子の配信やクラウドツールを活用するなど、だれもがどこからでも学習できる環境を整えていく。

デジタルドリル等の学習ログを確認することや希望する児童生徒への教育相談等に端末を活用することを検討する等、一人ひとりに適切な支援を行い、きめ細やかな指導の充実を図っていく。

④ 教員の資質向上

GIGA 第１期で課題となった校種間、学校間、教員間での活用の差をなくすために、全ての教員を対象に研修を定期的に行い、どの教室においても１人１台端末が活用できるよう支援を継続する。また、児童生徒と向き合う時間の確保や教員の業務負担軽減のために、効果的なＩＣＴツールやソフトを導入し、働き方改革も推進していく。

⑤ICT 支援員の活用や各学校との連携

これからも、原則３校につき１人の ICT 支援員を定期的に配置し、各学校の ICT 推進委員と連携を密に行い、教員の ICT に関わる苦手意識を軽減し、１人１台端末を積極的に活用できる体制を継続して整える。